

作品 No.138



生きものの“つぶやき”:

「最悪だあ・・・轢き逃げされるなんて・・・」

エッセイ:

車窓から、ヘッドライトに照らされ見上げている君が目に入った。
暗闇の中ひとりで道路の端でうずくまり、動けなくなっている。
足の骨が見えているひどい怪我だった。それでもまだ動こうとする君。
この怪我で再び道路に出てしまえば、さらに轢かれてしまうだろう。
そして事故を起こした人間は、怪我をした君のことをみて、顔をゆがめるかもしれない。
破損した自分の車を見て、君のせいにしてくるかもしれない。
そんなことはさせない。
君は何も悪くないんだ。
大丈夫だよ、助けを呼んだよ、もう少し頑張ろう。
寄り添い、身体を撫でて励ました。
その時の私が出来る、精一杯だった。
せめて、人間の温かさが伝わっていたらいいな。
本当は、私が助けてあげたかった。(306字)

生きものの紹介:

エゾシカ（蝦夷鹿）：北海道全域に生息するシカ。偶蹄目シカ科シカ属に分類されるニホンジカの亜種。

近年、温暖化の影響から全道的に積雪量が減ったことと、持ち前の繁殖力で爆発的に増え、深刻な農林被害を及ぼしたり、交通事故が多発している。「絶滅危惧種」の時代を乗り越えたエゾシカは今、「害獣」とされ駆除されている。

車とエゾシカの衝突事故は 2018 年度、北海道全体で 2,834 件にのぼり、3.5 時間に一度事故が起きている計算になる。

自然豊かな北海道だが、怪我をした野生動物を保護する態勢が整っていない。

私は命の重さは皆平等だと考える。

害獣だからと、軽視してはいけないのではないだろうか。

人間のせいで傷ついた野生動物を、助けられる人間になりたい。

撮影場所・日時:

北海道長沼町・2019年8月3日午後9時頃

応募者の自己紹介:

1. 湯村 晃尚美（ゆむら ひなみ） / 藤女子中学高等学校 1年
2. 生物・科学部
3. 将来の夢：人為的怪我や疾患を治療する、野生動物専門の獣医

※少し残酷な写真ですが、少しでも多くの人に現実を知ってもらいたくて選びました。
血の色がわかりにくいように少し色の調整をして、トリミングしています。

審査員よりひとこと

人も動物も怪我をしたら痛いし、だれかに助けてもらいたいです。事故が少しでも減るといいですね。